

第38回

そこにしか咲かない 花を描きに いつか、花の島へ

最近、NHKの朝ドラにはまっている。今までも日課のように見ていたが、今回は主人公のモデルが牧野富太郎だから余計、興味深く見ている。

なぜかと言うともう12年くらい前になるが、高知県に行く機会があった。もともと植物は見るのも描くのも大好きだったので、植物園に行こうと誘われ出かけたのが牧野植物園だった。そして、展示してあった牧野富太郎の植物画の原画を見て目が離せなくなった。ドラマでも描かれているけれど、植物に対する愛情が半端ない。図鑑の絵なのだが、植物への愛しさが線に出ていて、とても生き生きとした姿が描かれていた。それはやっぱりその植物に対しての敬愛なのだろうなとドラマを見つつ思い出した。その時に購入した「牧野富太郎植物画集」は私の宝物になった。ここしばらくは静かに本棚に置かれていたけれど、最近はやがて引っ張り出され、眺めてはその筆致に感心している。

北海道にも北海道ならではの植物がある。中でも礼文島はレブンアツモリソウやレブンキンバイソウのように、その地域にしかない固有種がたくさんある花の島だ。その島の花を写真に収め続けた写真家に^{そまだ} 杉田美野里さんがいる。2年前に亡くなられたが、何冊かある杉田さんの写真集を眺めていると、まるで恋人を写すようにその植物の表情を捉えていて、杉田さんの植物への愛情が伝わってくる。

きっと、牧野富太郎も杉田さんもいつもにこにこ笑顔で植物を眺めていたに違いない。その楽しさと嬉しさと植物への尊厳を込めた植物画や写真だからこそ、心が動かされるのだろうと思う。私もにこにこ、これからも絵を描き続けていこう。





すずき もも

イラストレーター・絵本作家／スローフードさっぽろ事務局長

東京生まれ、北海道夕張育ち。広告や雑誌、カレンダーなどのイラストを描くほか、イラストで綴る町案内の本や絵本などを執筆。ほか、「スローフードさっぽろ」を2016年に立ち上げ、食を中心に環境や暮らしの大事に取り組んでいる。著書に絵本「はるとなつ はたけのごちそうなーんだ？」（アリス館）「おいしい大地、北海道」（イースト・プレス）がある。近著に絵本「ハルルさんとひでんのカレー」（アリス館）がある。モットーは4つのS。「Simple, Slow, Small, Smile: ささやかに、ゆっくり、ほどほどに、にこにこ」。